

医療機関コード
医療機関名

御中

社会保険診療報酬支払基金

診療年月	受付番号 レセプト番号	保険者番号等	区分	給付区分	氏名 カ ル テ 番 号	箇所	法別	増減点数(金額)	専 由	負担	請 求 内 容	負担	補 正 ・ 査 定 後 内 容
						合計	01	-42			11,815		11,773
0407	0410-09,804,307 000,275					60	28 12	0 -80	B	6 6 6 6	PT APTT フィブリノゲン半定量 FDP定性	6 6 6 6	PT APTT フィブリノゲン半定量 70× B:療養担当規則等に照らし、医学的に保険診療上過剰・重複となるもの 審査結果の理由等:『診療内容を通覧し、過剰な算定と判断します。』
							28 12	0 -860	A	6	T-M(組織切片) 1臓器	860× 1	A:療養担当規則等に照らし、医学的に保険診療上適応とならないもの 審査結果の理由等:『適応病名がありません。』
							28 12	0 -130	A	6	病理判断料	130× 1	A:療養担当規則等に照らし、医学的に保険診療上適応とならないもの 審査結果の理由等:『査定にともなう判断料の査定』
							28 12	0 -1,720	A	6	T-M(組織切片) 1臓器	860× 2	A:療養担当規則等に照らし、医学的に保険診療上適応とならないもの 審査結果の理由等:『適応病名がありません。』
							28 12	0 -860	A	6	T-M(組織切片) 1臓器	860× 1	A:療養担当規則等に照らし、医学的に保険診療上適応とならないもの 審査結果の理由等:『適応病名がありません。』
						合計	28 合計	0 -3,650			850 179,680		850 176,030
						60	01	-80	A	1 1 1 1	PT APTT フィブリノゲン半定量 FDP定性	1 1 1 1	PT APTT フィブリノゲン半定量 70× A:療養担当規則等に照らし、医学的に保険診療上適応とならないもの 審査結果の理由等:『「FDP定性」は対象疾患が見受けられません。』
						合計	01	-80			10,203		10,123
						60	01	-80	B	1 1 1 1	PT APTT フィブリノゲン半定量 FDP定性	1 1 1 1	PT APTT フィブリノゲン半定量 70× B:療養担当規則等に照らし、医学的に保険診療上過剰・重複となるもの 審査結果の理由等:『診療内容を通覧し、過剰な算定と判断します。』

質内対象者

1 医科	2 公費	2 2 併	1 本入
------	------	-------	------

診療報酬明細書 (医科入院) 1 社 4 年 7 月分 県番 14 医

保 険			
記号・番号			(枝番)

区分	特記事項
氏名	
職務上の事由	

地及び名称

傷病名	(1) (主) 右特発性脛骨内顆骨壊死 (2) 左変形性膝関節症 (3) 関節リウマチ・膝関節 (4) 関節リウマチ 以下摘要欄	診療開始日	(1) 31. 3. 29 (2) 31. 3. 29 (3) 31. 3. 29 (4) 31. 4. 3	転帰		診療実日数	① 1 日 ② 2 1 日
-----	--	-------	---	----	--	-------	------------------

1 1	初 診	回			
1 3	医学管理		1445		1445
1 4	在 宅				
2 0	2 1 内 服	69 単	666		666
	2 2 屯 服	8 単	8		8
投 薬	2 3 外 用	単			
	2 4 調 剤	15 日	105		105
	2 6 麻 毒	日			
	2 7 調 基				
3 0	3 1 皮下筋肉内	回			
注 射	3 2 静 脈 内	回			
	3 3 そ の 他	5 回	1662		1662
4 0	処 置	10 回	600		600
処 薬	薬 剤		16		16
5 0	手術・麻酔	8 回	52830		52830
手 薬	薬 剤		59279		59279
6 0	検査・病理	32 回	7530	850	6680
検 薬	薬 剤				
7 0	画像診断	2 回	503		503
画 薬	薬 剤				
8 0	そ の 他		9750		9750
他 薬	薬 剤				

(傷病名)	(転帰)	(診療開始日)
(5) 老年性骨粗鬆症		1. 5. 2
(6) 老年性骨粗鬆症		1. 5. 2
(7) 左脛骨内顆骨壊死		4. 7. 11
(8) COVID-19の疑い	中止 11日	4. 7. 11
(9) 肺気腫の疑い		4. 7. 11
(10) 慢性胃炎		4. 7. 12
(11) 術中異常高血圧症	治ゆ 14日	4. 7. 14
(12) 術中頻脈発作	治ゆ 14日	4. 7. 14
(13) 術後悪心	治ゆ 14日	4. 7. 14
(14) 術後疼痛		4. 7. 14
(15) 便秘症		4. 7. 15
(16) 下肢静脈血栓症の疑い		4. 7. 21

入院年月日	4 年 7 月 11 日
9 0 病	9 0 入院基本料・加算
急一般4	100 × 1日 100
環境	3517 × 1日 3517
病薬実1	2390 × 3日 7170
急50	2115 × 9日 19035
重境	2235 × 1日 2235
せハイ	3434
9 2 特定入院料・その他	10645

13*	肺血栓塞栓症予防管理料	305 × 1
*	薬剤管理指導料 (安全管理を要する医薬品投与患者)	7月12日
	薬剤名 (薬剤管理指導料 1) ; リクシアナOD錠 15 mg	380 × 1
*	薬剤管理指導料 (安全管理を要する医薬品投与患者)	7月19日
	薬剤名 (薬剤管理指導料 1) ; デュロキセチン	380 × 1
*	薬剤管理指導料 (安全管理を要する医薬品投与患者)	7月25日
	薬剤名 (薬剤管理指導料 1) ; デュロキセチン	380 × 1

21*	カロナール錠 300 300mg 3錠	2 × 2
*	デュロキセチンOD錠 20mg 「ニプロ」	1錠
※高額療養費	円	※公 点
9 7 基準 I	640円 × 61回	※公 点
食事・食堂	円 × 回	基準(生) 円 × 回
生活	50円 × 21日	円 × 回
	円 × 日	

保 険	請 求 点 ※ 決 定 点	負担金額 円	保 険	回 請 求 円 ※ 決 定 円	標準負担額 円
の ①	8 5 0	0	生 活 ①		0
給 付 ②	1 7 9 , 6 8 0		生 活 療 養 ②	6 1 4 0 , 0 9 0	

公負①	
公負②	

保険				
(枝番)				

区分		特記事項	
氏名			
職務上の事由			

保険医
療機関
の所在
地及び
名称

		4 × 16		セファゾリンNa点滴静注用1gバッグオーツカ 生食100mL付 2キット	
* セレコキシブ錠100mg「ファイザー」		2錠		ソルデム3A輸液 500mL 1袋	
レバミピド錠100mg「オーツカ」		2錠		生食注シリンジ「オーツカ」10mL 2筒	
		5 × 9			
* トアラセット配合錠「ケミファ」		1錠	1 × 1		
* メトクロプラミド錠5mg「タカタ」		6錠		* セファゾリンNa点滴静注用1gバッグオーツカ 生食100mL付 2キット	173 × 1
		3 × 8		生食注シリンジ「オーツカ」10mL 4筒	177 × 3
* トアラセット配合錠「ケミファ」		1錠			
セレコキシブ錠200mg「ファイザー」		2錠	5 × 1		
		3 × 1		40* 創傷処置 (100cm ² 以上500cm ² 未満)	60 × 10
* トアラセット配合錠「ケミファ」		1錠		* 液体酸素・可搬式液化酸素容器 (LGC) (¥0.08 × 720L ×	
セレコキシブ錠200mg「ファイザー」		2錠	3 × 1	酸素補正率1.3 (1気圧) ÷ 10	8 × 1
		6 × 7		* 酸素ボンベ・小型 (¥0.68 × 90L ×	
* トアラセット配合錠「ケミファ」		2錠	2 × 14	酸素補正率1.3 (1気圧) ÷ 10	8 × 1
* リクシアナOD錠15mg		2錠	45 × 10		
				50* 自己血貯血 (6歳以上) (液状保存)	1mL
22* アローゼン顆粒 0.5g		1 × 7		自己血量	400mL 250 × 1
* カロナール錠200 200mg		2錠	1 × 1	* 自己血輸血 (6歳以上) (液状保存)	400mL 1500 × 1
				* 輸血管管理料2	
33* セファゾリンNa点滴静注用1gバッグオーツカ 生食100mL付 3キット				輸血適正使用加算 (輸血管管理料2)	170 × 1
大塚生食注 100mL 1瓶				* 手術	14日
ヴィーンF輸液 500mL 3袋				左	
ソルデム3A輸液 500mL 1袋				人工関節置換術 (膝)	
ヘスパンダー輸液 500mL 1袋				画像等手術支援加算 (患者適合型手術支援ガイド)	39690 × 1
フィジオ140輸液 500mL 1袋					
アセリオ静注液1000mgバッグ 1,000mg 100mL 1袋				* 麻酔 14日	
テルモ生食 1L 2袋				閉鎖循環式全身麻酔4 7分	
デキサート注射液3.3mg 1mL 2管				閉鎖循環式全身麻酔5 213分	
アドナ注 (静脈用) 25mg 0.5% 5mL 1管				硬膜外麻酔併施加算 (腰部) 196分	10010 × 1
トランサミン注10% 10mL 1管				液体酸素・可搬式液化酸素容器 (LGC) (¥0.08 × 500L ×	
ファモチジン注射用20mg「サワイ」		1管		酸素補正率1.3 (1気圧) ÷ 10	5 × 1
(侵襲ストレスによる上部消化管出血の抑制)				亜酸化窒素	1611g
オンダンセトロン注4mgシリンジ「マルイシ」		2		セボフルラン吸入麻酔液「ニッコー」	70mL
mL		1筒	859 × 1	プロポフォール静注1% 20mL「マルイシ」	20
* 点滴注射			99 × 1	0mg	1管

-	-
公負①	
公負②	

保険	
記号・番号	(枝番)

区分	特記事項
氏名	
職務上の事由	

保険医
療機関
の所在
地及び
名称

ロクロニウム臭化物静注液 50mg/5.0mL 「マルイシ」 5mL 2瓶	
カルボカインアンプル注 1% 10mL 3管	
アナペイン注 7.5mg/mL 0.75% 20mL 2管	
レミフェンタニル静注用 2mg 「第一三共」 1瓶	
エフェドリン「ナガサ」注射液 40mg 4% 1mL 1管	
ミリスロール注 5mg/10mL 1管	
リドカイン静注用 2% シリンジ「テルモ」 5mL 1筒	
ドルミカム注射液 10mg 2mL 1管	
ドプラム注射液 400mg 20mg 20mL V	
アネキセート注射液 0.5mg 5mL 1管	
ブリディオ静注 200mg 2mL 1瓶	
アトロピン硫酸塩注射液 0.05% 1mL 1管	
キシロカインゼリー 2% 10mL	
生理食塩液「ヒカリ」 1L 3瓶	2554 x 1
* 麻酔管理料 1 (閉鎖循環式全身麻酔)	1050 x 1
* バード バード I. C. シルバーフォーリートレイ B 14Fr 7760014LR 膀胱留置用ディスク ポーザブルカテーテル (2管一般 (3)・閉鎖式) 1, 720円 1個	
大研医器 クーデックバルーンジェクターPCAセット CIE20-2040-IP3-E3020 携帯型ディスクポータブルPCA用装置 4, 270円 1個	
メダクタ GMK SPHERE 大腿骨コンポーネントセメント 02.12.0022L 人工膝関節用材 (大腿骨側材・全置換用 (間)) 242, 000円 1個	
メダクタ GMK 脛骨トレイセメント 02.07.1202L 人工膝関節用材 (脛骨側材・全置換用 (間)) 145, 000円 1個	
メダクタ GMK SPHERE 脛骨インサート Flex 02.12.0210FL 人工膝関節用材 (インサート (1)) 52, 600円 1個	
メダクタ GMK リサーフェースパテラ 02.07.0034RP 人工膝関節用材 (膝蓋骨材・膝蓋骨置換用 (1)) 34, 100円 1個	

メダクタジャパン GMKエクステンションシステム 02.07.F11030 オプション部品 (人工膝関節用部品) 65, 500円 1個	
ジンマー・バイオメット 骨セメント (人工関節固定用) (1g当たり) 110035375 バイオメットポーンセメントR 302円 60g	56331 x 1
* 硬膜外麻酔後における局所麻酔剤の持続的注入	80 x 1
アナペイン注 2mg/mL 0.2% 100mL 2袋	
ドロレプタン注射液 25mg 2.5mg 1mL V	
モルヒネ塩酸塩注射液 10mg 「タケダ」 1% 1mL 1管	
大塚生食注 1.00mL 1瓶	277 x 1
* 硬膜外麻酔後における局所麻酔剤の持続的注入	80 x 1
アナペイン注 2mg/mL 0.2% 100mL 1袋	112 x 1
60* 末梢血液一般検査	
末梢血液像 (自動機械法)	36 x 4
* PT	
APTT	
フィブリノゲン半定量, FDP定性	150 x 1
* 血液学的検査 (3項目未満)	
Dダイマー	130 x 1
* 生化学的検査 1 (10項目以上)	
BIL/総, Aib (BCP改良法・BCG法) TP, BUN, クレアチニン	
ナトリウム及びクロール, カリウム, AST, ALT LD, CK	106 x 3
* 血液ガス分析	135 x 1
* 生化学的検査 1 (10項目以上)	
BIL/総, TP	
Aib (BCP改良法・BCG法), BUN	
クレアチニン, ナトリウム及びクロール, カリウム	
AST, ALT, LD, CK	
入院時初回加算	126 x 1
* CRP	16 x 4

1 医科	2 公費	2 2 併	1 本入
------	------	-------	------

公負①	
公負②	

保 険			
記号・番号			(枝番)

区分		特記事項	
氏名			
職務上の事由			

保険医療機関の所在地及び名称

* SARS-CoV-2 核酸検出 (検査委託以外)	700 × 1
* 検体検査管理加算 (2)	100 × 1
* 超音波検査 (断層撮影法) (下肢血管) パルスドプラ法加算	
下肢静脈	600 × 1
* 骨塩定量検査 (DEXA法による腰椎撮影) 前回実施年月日 (骨塩定量検査 (DEXA法による腰椎撮影)) 令和 1年 5月29日	
大腿骨同時撮影加算 (DEXA法)	
電子媒体保存撮影 2回	450 × 1
* 呼吸心拍監視 (3時間超) (7日以内) 算定開始年月日 (呼吸心拍監視等) 令和 4年 7月14日	150 × 1
* 平衡機能検査 (下肢加重検査)	250 × 1
* 鼻腔・咽頭拭い液採取	25 × 1
* T-M (組織切片) 1臓器	
材料: 軟部組織 靭帯	860 × 2
* T-M (組織切片) 1臓器	
材料: 皮下組織	860 × 1
* T-M (組織切片) 1臓器	
材料: 骨・軟骨	860 × 1
* 人工関節後ルーチン検査です	
* B-A	55 × 1
* 血液学的検査判断料	125 × 1
* 生化学的検査 (1) 判断料	144 × 1
* 免疫学的検査判断料	144 × 1
* 微生物学的検査判断料	150 × 1
* 病理判断料	130 × 1
70* X-P 膝関節 (左) (デジタル)	167 × 1
電子媒体保存撮影 2回	
電子画像管理加算 (単純撮影)	57 × 1
* X-P 膝関節 (左) (デジタル)	222 × 1
電子媒体保存撮影 3回	
電子画像管理加算 (単純撮影)	57 × 1
80* (リハビリテーション実施日数 (運動器) 15日)	
* リハビリテーション総合計画評価料 1	300 × 1

* 運動器リハビリテーション料 (1) 1単位	
疾患名 (運動器リハビリテーション料); 左変形性膝関節症	
発症年月日 (運動器リハビリテーション料) 平成31年 3月29日	
初回算定日 31年 3月29日	185 × 2
* 運動器リハビリテーション料 (1) 1単位	
早期リハビリテーション加算 1単位	
初期加算 (リハビリテーション料) 1単位	
疾患名 (運動器リハビリテーション料); 左変形性膝関節症	
発症年月日 (運動器リハビリテーション料) 平成31年 3月29日	
手術年月日 (運動器リハビリテーション料) 令和 4年 7月14日	
初回算定日 4年 7月14日	260 × 1
* 運動器リハビリテーション料 (1) 2単位	
早期リハビリテーション加算 2単位	
初期加算 (リハビリテーション料) 2単位	
疾患名 (運動器リハビリテーション料); 左変形性膝関節症	
発症年月日 (運動器リハビリテーション料) 平成31年 3月29日	
手術年月日 (運動器リハビリテーション料) 令和 4年 7月14日	
初回算定日 4年 7月14日	520 × 2
* 運動器リハビリテーション料 (1) 3単位	
早期リハビリテーション加算 3単位	
初期加算 (リハビリテーション料) 3単位	
疾患名 (運動器リハビリテーション料); 左変形性膝関節症	
発症年月日 (運動器リハビリテーション料) 平成31年 3月29日	
手術年月日 (運動器リハビリテーション料) 令和 4年 7月14日	
初回算定日 4年 7月14日	780 × 4
* 運動器リハビリテーション料 (1) 4単位	
早期リハビリテーション加算 4単位	
初期加算 (リハビリテーション料) 4単位	
疾患名 (運動器リハビリテーション料); 左変形性膝	

1 医科	2 公費	2 2 併	1 本入
------	------	-------	------

公負①	
公負②	

保 険			
記号・番号	(枝番)		

区分		特記事項	
氏名			
職務上の事由			

保険医療機関の所在地及び名称

関節症 発症年月日 (運動器リハビリテーション料) 平成31年 3月29日 手術年月日 (運動器リハビリテーション料) 令和 4年 7月14日 初回算定日 4年 7月14日 1040 × 2 * 運動器リハビリテーション料 (1) 3単位 早期リハビリテーション加算 3単位 疾患名 (運動器リハビリテーション料) ; 左変形性膝関節症 発症年月日 (運動器リハビリテーション料) 平成31年 3月29日 手術年月日 (運動器リハビリテーション料) 令和 4年 7月14日 初回算定日 4年 7月14日 645 × 1 * 運動器リハビリテーション料 (1) 5単位 早期リハビリテーション加算 5単位 疾患名 (運動器リハビリテーション料) ; 左変形性膝関節症 発症年月日 (運動器リハビリテーション料) 平成31年 3月29日 手術年月日 (運動器リハビリテーション料) 令和 4年 7月14日 初回算定日 4年 7月14日 1075 × 1 * 運動器リハビリテーション料 (1) 2単位 早期リハビリテーション加算 2単位 疾患名 (運動器リハビリテーション料) ; 左変形性膝関節症 発症年月日 (運動器リハビリテーション料) 平成31年 3月29日 手術年月日 (運動器リハビリテーション料) 令和 4年 7月14日 初回算定日 4年 7月14日 430 × 2

* せん妄ハイリスク患者ケア加算 せん妄のリスク因子 : 70歳以上 ハイリスク患者に対するせん妄対策 : 疼痛管理の強化 (痛みの客観的評価の併用等) 100 × 1 * 急性期一般入院料 4 一般病棟入院期間加算 (14日以内) 診療録管理体制加算 2 医療安全対策加算 2 医療安全対策地域連携加算 2 感染対策向上加算 2 連携強化加算 (感染対策向上加算 2 又は 3) サーベイランス強化加算 (感染対策向上加算 2 又は 3) データ提出加算 2 (許可病床数 200床未満) 提出データ評価加算 75対1補助体制加算 (医師事務作業補助体制加算 1) 患者サポート体制充実加算 50対1急性期看護補助体制加算 病棟薬剤業務実施加算 1 後発医薬品使用体制加算 3 重症者等療養環境特別加算 (個室) 3517 × 1 * 急性期機能病棟 0 2 * 急性期一般入院料 4 一般病棟入院期間加算 (14日以内) 50対1急性期看護補助体制加算 重症者等療養環境特別加算 (個室) 2390 × 3 * 急性期一般入院料 4 一般病棟入院期間加算 (14日以内) 50対1急性期看護補助体制加算 療養環境加算 2115 × 9 * 急性期一般入院料 4 一般病棟入院期間加算 (14日以内) 50対1急性期看護補助体制加算 病棟薬剤業務実施加算 1 療養環境加算 2235 × 1 * 急性期一般入院料 4 一般病棟入院期間加算 (15日以上30日以内) 病棟薬剤業務実施加算 1 療養環境加算 1777 × 1
--

90 感サ
 予提 2
 予評
 医 1 の 75
 患サポ
 後使 3

1 医科	2 公費	2 併	1 本入
------	------	-----	------

公負①	
公負②	

保 険	
記 号 ・ 番 号	(枝番)

区分	特記事項
氏 名	
職務上の事由	

<p>* 急性期一般入院料 4 一般病棟入院期間加算 (15日以上30日以内) 療養環境加算 1657 × 1</p> <p>* 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 対象疾患の発症年月日 (回復期リハビリテーション病棟入院料) 平成31年 3月29日 入棟年月日 (回復期リハビリテーション病棟入院料) 令和 4年 7月27日 対象疾患の手術年月日 (回復期リハビリテーション病棟入院料) 令和 4年 7月14日 2129 × 5</p> <p>* 回復期機能病棟 0 1 -----以下余白-----</p>	
---	--

手術記録

手術日 2022年 7月 12日 記載者

術者 手術開始 15時 27分

助手 終了 18時 9分

看護師 手術時間 2時間 38分

ID

氏名 歳

性別

輸血量 0 ml

出血量 15 ml

麻酔医 麻酔法 全麻+ブロック

外固定 無 Jones包帯・ニーブレス病理検査 有 細胞学的検査 有 ターニケット 使用・非使用 270 mmHg

術前診断 左脛骨内顆骨壊死

術後診断 同左

手術術式 左人工膝関節全置換術

術中合併症 有

手術所見

体位：仰臥位

麻酔：全身麻酔+硬膜外ブロック

PSIを用いて実施。

皮切は13cmほどの正中縦切開で関節内へはmedial parapatellar approachで侵入した。

関節液は若干粘中等量、関節内は滑膜の増生著明でありRAに矛盾しない所見であったが、関節軟骨は残存しており、術前画像検査と一致していた。

パテラレトラクターをかけ膝蓋下脂肪体を切除した後に、ITTのGerdy結節付着部を脛骨骨切りに必要な分だけ剥離した。

その後内側の関節包と脛骨の癒着を剥離し、屈曲時に大腿骨に4面カットガイドがあてられるように視野を確保した。

ACL、PCLは残存するも黄色変性していた。膝屈曲位で顆間部の骨棘を平ノミで切除し、ACLとPCLを続いて切除した。その後、大腿骨前面の滑膜切除を行い骨切り時の視野を確保した。

大腿骨カットガイドを当て、遠位部の骨切りを行った後に、4面カットを行った。

PCLレトラクターを挿入し、LM、MMの切除を行った。

大腿骨トライアルを設置し、サイズを確認し余分な大腿骨骨棘を切除した。

次に脛骨骨切りに移ったカットガイドを設置し、脛骨骨切りを行ったのちにアライメントロッドを用いて術前計画通り後傾5度、内反3度程度の骨切りを実施した。骨切り量が内外側ともに少なく、カットブロックを挿入したところMCLがタイトであったため、脛骨に2mmの追加parallel cutを実施した。

トライアルを実施したところ、屈曲のstabilityは良好であったが、伸展時のタイトさがあり、フリーハンドで脛骨前方の骨切りを行いやや前方傾斜がつくような骨切りを実施した。

脛骨の後傾が術前計画の5度より少なくなるように前方傾斜に沿って、脛骨側のギール作成実施。トライアルを実施し良好なstabilityが得られていることを確認した。

膝蓋骨の置換とlateral PFのfacetectomyを実施し、トラッキングが良好であることを確認した。

十分に洗浄した後に、セメントを塗りインプラントを設置した。

洗浄した後に関節包を0バイグリスル、皮下を3-0PDS、表皮はステリテープで閉創した。

術後Jones包帯固定とした。

<術後ROM>

0-0-120

<後療法>

可及的全荷重

<使用インプラント>

GMK Sphere

大腿骨2+、インサート10mm、脛骨2 stem extension $\phi 11 \times 30$ mm、patella 2